



2019年7月

- [Cisco DNA Spaces の概要](#) (1 ページ)
- [新機能](#) : 7月19日 (3 ページ)
- [機能強化](#) : 7月19日 (4 ページ)
- [不具合](#) (5 ページ)

Cisco DNA Spaces の概要

Cisco Digital Network Architecture (DNA) Spaces は、既存のワイヤレスや IoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco DNA Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now レポート** は、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別)、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco DNA Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセッ

トトラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy（BLE））を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco DNA Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーとインテリジェンスを通じてこれらの複数のサービスを利用するための単一のダッシュボードインターフェイスを提供します。Cisco DNA Spaces を使用すると、物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携することができます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco DNA Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、オンプレミスのアセットを監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco DNA Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

パートナープログラムを通じて Cisco DNA Spaces を使用すると、さまざまな業界のあらゆるパートナーアプリケーションに企業がアクセスできます。

Cisco DNA Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco DNA Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、行動メトリクス、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco DNA Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい近接レポートアプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco DNA Spaces ユーザーのプロファイルの詳細を追加および表示できるようにプロビジョニング。
- Cisco DNA Spaces に新しいライセンスタイプ [Extend] を追加。
- 新しいアプリ、Cisco DNA Spaces : シスコのワイヤレス インフラストラクチャを使用して IoT デバイスを要求、管理、および監視できるようにする IoT サービス。

- [SMS with Link Verification] 認証のオプトインサポート。
- ロケーション名にカーソルを合わせると [More Actions] メニューが表示されるようにロケーション階層を拡張。
- アクセスポイントのコントローラ IP アドレスを表示できるようにするためのプロビジョニング。
- 非実用的なエントリを避けるために、場所に定義できる総面積の値を制限。
- [SEE] ライセンスの下で検出と位置特定アプリを表示。
- ロールを使用した Map Services および DNASpaces への独立したアクセス権の提供をサポート。
- パートナーダッシュボードの利用規約を更新。

新機能：7月19日

Cisco DNA Spaces ダッシュボード

次の新機能が Cisco DNA Spaces ダッシュボードに追加されました。

Cisco CMX-CMX ゾーンをサポート

Cisco DNA Spaces ダッシュボードでは、[Cisco CMX] に追加された CMX ゾーンのインポートをサポートするようになりました。CMX ゾーンはフロアの下に追加できます。

CMX ゾーンには X、Y 座標のみがあり、それらに関連付けられたアクセスポイントはありません。

[Add CMX Zone] オプションを使用して、CMX ゾーンを手動でインポートできるようになりました。

Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Location Hierarchy] ウィンドウで、フロアの [More Actions] メニューで新しいオプション [Add CMX Zone] を使用できるようになりました。

Map Services : CMX ゾーンをサポート

Cisco DNA Spaces ダッシュボードは、[Map Services] の CMX ゾーンサポートを提供するようになりました。[Setup] > [Map Services] に追加された CMX ゾーンは、Cisco DNA Spaces のロケーション階層にインポートできるようになりました。

CMX ゾーンには X、Y 座標のみがあり、それらに関連付けられたアクセスポイントはありません。

Cisco DNA Spaces の既存のロケーションについては、この CMX ゾーンがサポートされる前に [Map Services] で CMX ゾーンが作成された場合、その CMX ゾーンは同期中に自動的にインポートされません。[Add CMX Zone] オプションを使用して、ロケーション階層に手動で追加

する必要があります。追加すると、この特定の CMX ゾーンに対して行われたすべての更新が自動的に同期されます。この CMX ゾーンをサポート後に [Map Services] に追加されたすべての CMX ゾーンは、Cisco DNA Spaces のロケーション階層に自動的にインポートされます。

Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Location Hierarchy] ウィンドウで、フロアの [More Actions] メニューで新しいオプション [Add CMX Zone] を使用できるようになりました。

WLC Direct Connect の Map Services

Wireless Controller Cloud Connect を介して接続された Cisco AireOS のお客様は、Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Setup] > [Map Services] オプションを使用してロケーションをインポートできるようになりました。この機能により、Cisco Prime で定義されているのと同じ階層構造 (Campus-Building-Floor) でロケーションをインポートできます。以前は、ワイヤレスクラウドコネクタを介して接続された Cisco AireOS のお客様は、ワイヤレスコントローラの IP とアクセスポイントのみをロケーションとしてインポートできました。

[Map Services] 機能を使用するには、[CMX Prime] から必要なロケーションをダウンロードしてから、それらを [Map Services] オプションにインポートする必要があります。次に、これらのロケーションをロケーション階層にインポートできます。この機能をサポートするために、[Add a Wireless Network] ウィンドウで、[WLC Direct Connect] の 2 つの個別のオプションである [Access Point Prefix] と [Map Services] を使用できるようになりました。

Network Sync サーバー : CMX ゾーンをサポート

Cisco DNA Spaces ネットワーク同期サーバーは、CMX ゾーン同期をサポートするようになりました。このサポートは、[Cisco CMX] および [Map Services] に追加された CMX ゾーンで利用できます。

Network Sync サーバーは、[Cisco CMX] または [Map Services] で行われた変更に基づいて、ロケーション階層内の CMX ゾーンを追加、更新、および削除します。

ただし、Cisco DNA Spaces の既存のロケーションについては、この CMX ゾーンがサポートされる前に [Map Services] で CMX ゾーンが作成された場合、その CMX ゾーンは同期中に自動的にインポートされません。[Add CMX Zone] オプションを使用して、ロケーション階層に手動で追加する必要があります。追加すると、この特定の CMX ゾーンに対して行われたすべての更新が自動的に同期されます。また、以前にバックエンドから追加された CMX ゾーンは、[Map Services] の変更に基づいて更新または削除されます。

機能強化 : 7月19日

Cisco DNA Spaces ダッシュボード

Cisco DNA Spaces ダッシュボードには、次の変更が加えられました。

ライセンス除外セキュリティアプライアンス

ネットワークの同期中に、Cisco DNA Spaces ライセンスのアクセスポイントをカウントするときに、セキュリティアプライアンスが除外されるようになりました。以前は、セキュリティアプライアンスもアクセスポイントと一緒にカウントされていたため、特定のライセンスで許可されているすべてのアクセスポイントを使用することはできませんでした。

行動メトリクス

[Behavior Metrics] レポートに次の変更が加えられました。

- 選択した期間に特定のチャートまたはグラフのデータがない場合、グラフは淡色表示になり、「選択した期間に使用できるデータがありません」というラベルがチャートに表示されます。以前は、データが利用できない場合、「レポートデータが利用できません」というラベルが赤で表示されていました。
- サブブランドのデータが定義されていない場合、サブブランドのグラフはレポートで淡色表示されます。また、「ブランドを作成していません」というラベルがチャートに表示されます。以前は、サブブランドのデータがない場合、「レポートデータが利用できません」というラベルが赤で表示されていました。

SSID：独立した削除のサポート

Cisco DNA Spaces では、SSID が Meraki などのワイヤレスネットワークから削除されていない場合でも、SSID を削除できます。この機能強化により、ネットワーク同期の遅延中に不要な SSID を削除できます。

不具合

不具合では、Cisco DNA Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

Cisco Bug Search Tool

Cisco Bug Search Tool (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 1: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。

修正されたバグ

表 2: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp28767	同じ名前の AP が 2 つある場合、1 つの AP Mac のみを提供する LocationDistribution API 応答。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。